

## 「北九州マラソン 2025」

No.38 鴛海拓也

昨年に引き続き、高校時代の同級生の息子さん(H先生)と「ペアリレーマラソン」にて参加。今回は、小倉駅～門司港駅往復の「第二走者」を受け持つ事にする。往路か復路は、「関門海峡」名物の強風に遭遇する事だろう。出来れば、今年の「前半」の記録と今回の「後半」の記録を足して「サブ4」を狙いたい。

2月15日(土曜日)

前日の受付。今回は、レース翌日に授業に出るために車で移動(始発が遅いため)。ホテル近くの「駐車場」を見つけてから会場へ。二人分の受付を済ませてから、ホテルにチェックイン。夕食はどこかのお店を探しながら、「小倉商店街」を散策。どこが良いのか、わからない！

駅前の「ダイワロイネットホテル」の1階にある「炉端焼き」の店にたどり着く。「生け簀」もあって、新鮮な刺身を味わう事が出来た。美味しかったので、「明日も来ます」と言ってホテルに戻る。

2月16日(日曜日)

午前9時に、第一走者がスタートなのでゆっくりと朝食が摂れるが、6時半の提供時間には大変な混雑である。看護師の「国家試験」も重複しているので、すごく多い。私の出番は正午位だが、午前9時半には会場に入って待機しなくてはならない。部屋から遠くに見える出発地点の「スタート」の号砲を見送ってから会場に移動。

待機場所でランナーの様子が気になり、「応援ナビ」のアプリをダウンロードして選手の動向をMAP上にて確認。去年は3時間で走ったH先生だが、今回は順調に進んでいる。予想をはるかに上回り、2時間30分を切ってタスキを繋いでもらう。

私は、強風とペースダウンを気にしながら1キロ6分で慎重に進む。このスピードでも、後半になってペースの落ちている他のランナーを避けながら進むので効率がすごく悪い。赤いタスキを付けた「ペアリレー」の選手を次々とクリアしていく。無理をしなくても、追い越せる。当日は風もなく走りやすいコンディションだったので、最後にはペースを上げてフィニッシュ。最後まで沿道の応援にも応える事が出来て、久しぶりに楽しいレースであった。タイムは21.8kmが2時間12分13秒と良くは無いが、非常に満足出来た。途中、「炭治郎」の野村さんとエールを交わす。

レース後は、迎えてくれたH先生と妻と感動を分かち合い、ホテルに向かってシャワーで汗を流す。昼食は摂っていないので、午後4時から早めの夕食を「炉端焼き」で始め、乾杯を重ねる。宗像市の鐘崎から取り寄せたイカの刺身は最高に美味しかった。



「待機場所」へ移動中のスナップです！

(最後に)

大土さん、永い間「北九州マラソン」の運営に携わって頂いてありがとうございました。  
この大会では「どこで大土さんと会えるのか」と楽しみにしていましたよ。